



吉田良夫教授

吉田良夫教授 略歴

学 歴

- 昭和50年3月 関西大学大学院文学研究科英文学専攻修士課程修了 (文学修士)
昭和53年3月 関西大学大学院文学研究科英文学専攻博士課程単位取得満期退学
平成15年9月 博士 (文学) の学位を授与される (関西大学 博第309号)

職 歴

- 昭和54年4月 熊本短期大学 (現熊本学園大学) 講師 (至る昭和59年3月)
昭和59年4月 熊本短期大学助教授 (至る平成元年3月)
昭和62年8月 英国ハル大学文学部英文学科客員研究員 (至る昭和63年7月)
平成元年4月 熊本短期大学教授 (至る平成6年3月)
平成6年4月 熊本学園大学外国語学部教授 (大学名改称と移動による、至る令和2年3月)
平成8年7月 アメリカ合衆国モンタナ州立大学交換教授 (至る平成9年6月)
平成10年4月 学校法人熊本学園評議員 (至る令和元年7月)
平成14年1月 熊本学園大学外国語学部長 (至る平成17年12月)
平成17年4月 熊本学園大学大学院国際文化研究科博士後期課程教授 (至る令和2年3月)
平成17年4月 熊本学園大学大学院国際文化研究科博士後期課程分会長 (至る同年12月)
平成18年4月 熊本学園大学大学院国際文化研究科長 (至る平成20年3月)

平成20年4月 学校法人熊本学園理事 (至る平成22年8月)

平成26年8月 学校法人熊本学園理事再任 (至る令和2年3月)

平成28年1月 熊本学園大学副学長 (至る令和2年3月)

専門分野：英文学

【主要業績】

I. 著書

(単著) 『ヴァージニア・ウルフ論—ヴィジョンと表現』、葦書房、平成3年

(単著) 『ヴァージニア・ウルフ論—ヴィジョンと表現 改訂版』、葦書房、平成11年

(単著) 『英国女性作家の世界』、大阪教育図書、平成16年

II. 論文

「J. Austen: *Sense and Sensibility* 研究」 関西大学修士論文、昭和50年1月

「J. オースティン：『高慢と偏見』 試論」、『千里山文学論集』、第8号、昭和52年10月

「*Persuasion*の一つのパターン—喪失から獲得へ」、*POIESIS*、第5号、昭和52年11月

「ジェイン・オースティン：『マンスフィールド・パーク』 試論」、*POIESIS*、第7号、昭和54年7月

「J. オースティンと〈家庭〉崩壊のプレリュード—『高慢と偏見』『マンスフィールド・パーク』『説得』を中心に」、『熊本短大論集』、第31巻第2号、昭和55年10月

「J. オースティン：『エマ』の側面」、『熊本商大論集』、第28巻第1号、昭和56年8月

「ジェイコブ像を求めて—V. ウルフ『ジェイコブの部屋』 試論」、『熊本商大論集』、第30巻第2号、昭和58年12月

「『燈台へ』一父と母と子のいる情景」、『熊本短大論集』、第37巻第3号、昭和62年2月

「Vision and Confession: *An Essay on Night and Day*」、『熊本短大論集』、第39巻第3号、平成元年3月

「『ダロウェイ夫人』論—“plunge”と“enough”をめぐる」、『熊本短大論集』、第40巻第4号、平成元年6月

「ヴァージニア・ウルフ覚書—「燈台」と「光」のイメージ」、『熊本短大論集』、第41巻第1号、平成2年7月

「「鱈」のイメージをめぐる—ヴァージニア・ウルフ覚書」、『熊本短大論集』、第41巻第2号、平成2年12月

「『船出』論—愛と死のエチュード」、『熊本短大論集』、第41巻第3号、平成3年3月

「『幕間』論—〈表題〉の意味をめぐる」、『海外事情研究』、第18巻第1・2合併号、平成3年6月

「ヴァージニア・ウルフ『歳月』論—「事実」の海へ」、『熊本短大論集』、第42巻第3号、平成3年10月

「ヴァージニア・ウルフ論—評伝の試み」、『熊本学園創立50周年記念論集』、平成4年5月

「『ジェイン・エア』論—怒りの少女」、『熊本短大論集』、第43巻第3号、平成5年3月

「『嵐が丘』断章—キャサリンの選択」、『英語・英文学への賛歌—廣岡英雄先生喜寿記念論集』、英宝社、平成6年9月

「キャサリン・マンスフィールド素描—一生と死のはざままで」、『多田敏夫先生古希記念論集』、大阪教育図書、平成7年5月

「「風が吹く」断章—象徴をめぐる」、『熊本学園大学文学・言語学論集』、第2巻第1号、平成7年6月

「『ダニエル・デロンダ』論断章—ヒロインをめぐる」、『英語英文学の心—廣瀬

捨三先生米寿記念論集』、大阪教育図書、平成11年6月

「『人形の家』—ランプの象徴をめぐる』、『熊本学園大学文学・言語学論集』、第7巻第1号、平成12年6月

「『アグネス・グレイ』論—遺恨とロマンス』、『熊本学園大学文学・言語学論集』、第9巻第1号、平成14年6月

「ヴァージニア・ウルフの小説研究—ヴィジョンと表現』、関西大学博士論文、平成15年9月

「満たされざる『空白』—ヴァージニア・ウルフ『波』論』、『海外事情研究』第34巻第1号、平成18年9月

「K・マンスフィールド『小屋の女』—グロテスクをめぐる』、『伊藤孝治先生古希祈念論文集—英語学、言語・文化・教育、英文学、米文学に関する研究』、大阪教育図書、平成10年3月

「ジョージ・エリオットの足跡を訪ねて』、『熊本学園大学文学・言語学論集』、第14巻第2号、平成19年12月

「『幸福』のアイロニーと色彩をめぐる』、『海外事情研究』、第39巻第1号、平成23年9月

「キャサリン・マンスフィールド『ハエ』をめぐる—ハエの死』、『熊本学園大学文学・言語学論集』、第19巻第1号、平成24年6月